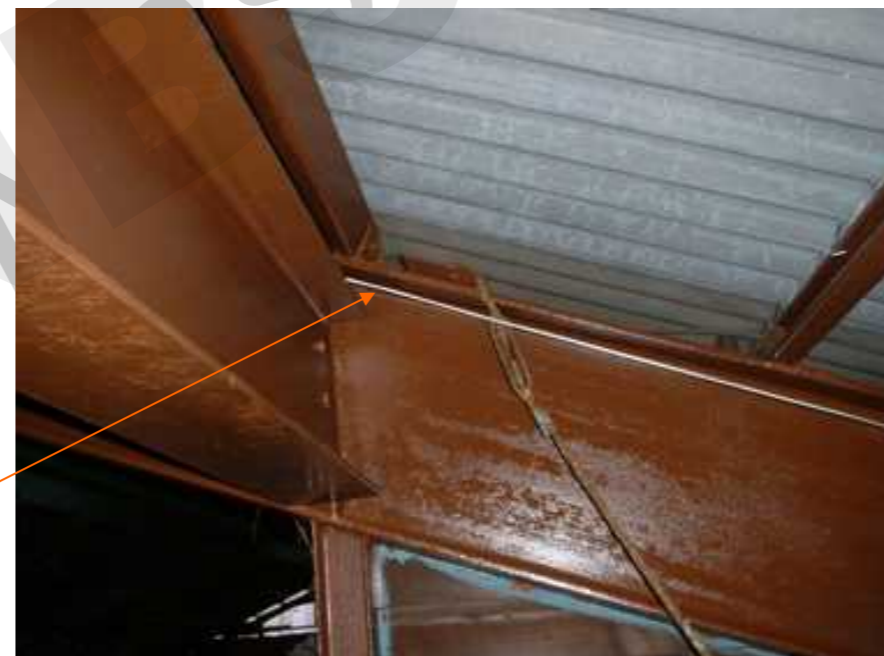


メッセン付き空気管

離隔距離の確認



メッセン付き空気管  
空気管



## 空気管の特徴

### 空気管の特徴

スポット型感知器のように火災をポイントで監視するのではなく、対象物全体の火災による温度上昇を監視しますので、早期の感知、作動が可能で、誤報の確率も低くなります

POINT

天井高の高い広い倉庫などの火災監視には熱電対方式と共に最適の設備です。

自動火災報知設備について →

空気管の技術基準 →

作動原理を参照してください。↓

POINT

敷設場所は天井高さが高い倉庫などがほとんどですので、消防検査当日土間から目視で壁からの隔離距離の確認作業ができません。施工時にポイントを決め、隔離距離が確認できる映像と図面を残してください。




**自動火災報知設備 空気管の敷設**
 について
 - **西日本防災システム**



メッセン付き空気管

空気管の方向転換



POINT

方向転換の際は、空気管に**過度な圧力**をかけて、**変形**しないよう注意が必要です。



離隔距離の確認




**自動火災報知設備 空気管の敷設**
 について
 - **西日本防災システム**



空気管の方向転換

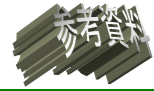


メッセン付き空気管



離隔距離の確認





自動火災報知設備 空気管の敷設

について

- 西日本防災システム



検出器からの 3系統の空気管  
立ち下げ空気管は配管に収納します

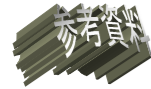


空気管の方向転換



検出器





自動火災報知設備 空気管の敷設

について

- 西日本防災システム



敷設概要

試験結果報告書

について

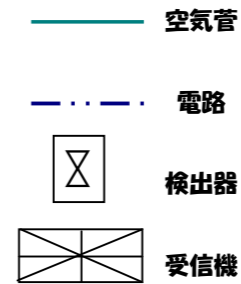
自動火災報知設備

(その4)

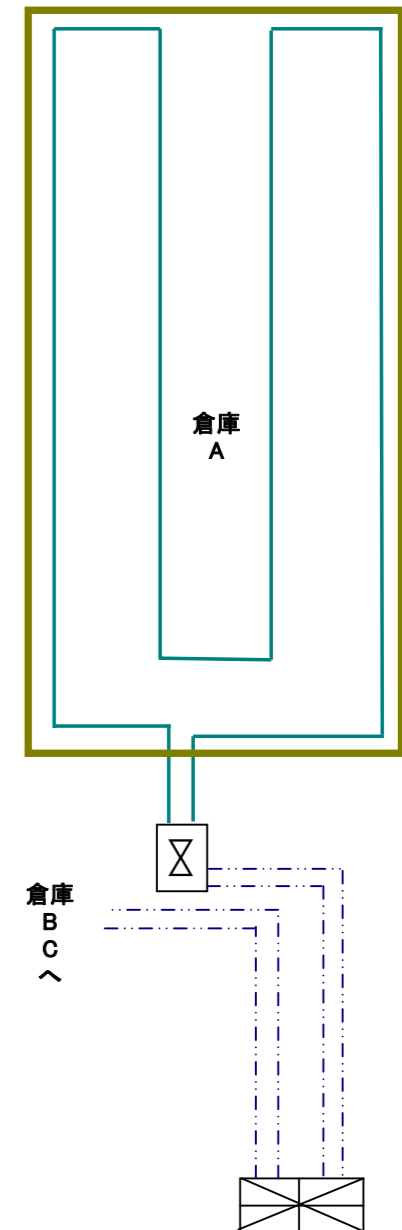
警戒区域種別	受信機の表示番号	名称	製造番号	差動式分布型感知器										結果		
				空気管式					熱電式							
				空気管	送気	動作	作動	流通	接点	動作	回路	熱半導体	動作		回路	定温線式
				長さ	量	試験	試験	試験	試験	試験	試験	試験	試験		試験	試験
	m	cc	秒	秒	秒	mm	mv	Ω	mv	Ω	Ω					
1	1号棟 南	2	0683	97	1.8	8	26	14	13							良
2	1号棟 南西	"	0531	96	"	7	31	16	10							良
3	1号棟 中	"	0527	98	"	8	29	13	10							良
4	1号棟 中東	"	0532	100	"	7	36	13	11							良
5	1号棟 北	"	0526	98	"	7	28	15	10							良
6	1号棟 北西	"	0685	98	"	7	32	14	11							良
7	2号棟 南	"	0684	97	"	7	35	16	11							良
8	2号棟 南西	"	0530	96	"	8	38	15	10							良
9	2号棟 中	"	0682	97	"	7	28	15	11							良
10	2号棟 中東	"	0529	96	"	7	31	13	11							良
11	2号棟 北	"	0681	98	"	7	29	14	11							良
12	2号棟 北西	"	0528	97	"	7	36	16	11							良



テスト機器  
マノメーター



通常検出器は機器収納箱（総合盤）に収められ、建屋内に設置します。



作動原理

防火対象物内の空気管内部 — の空気を監視しています。

火災の発生により、防火対象物内の温度が上昇。同時に空気管内部の空気も温度上昇に伴い体積が増加します。この膨張を検出器が捉えて接点を閉じて、発報となります。

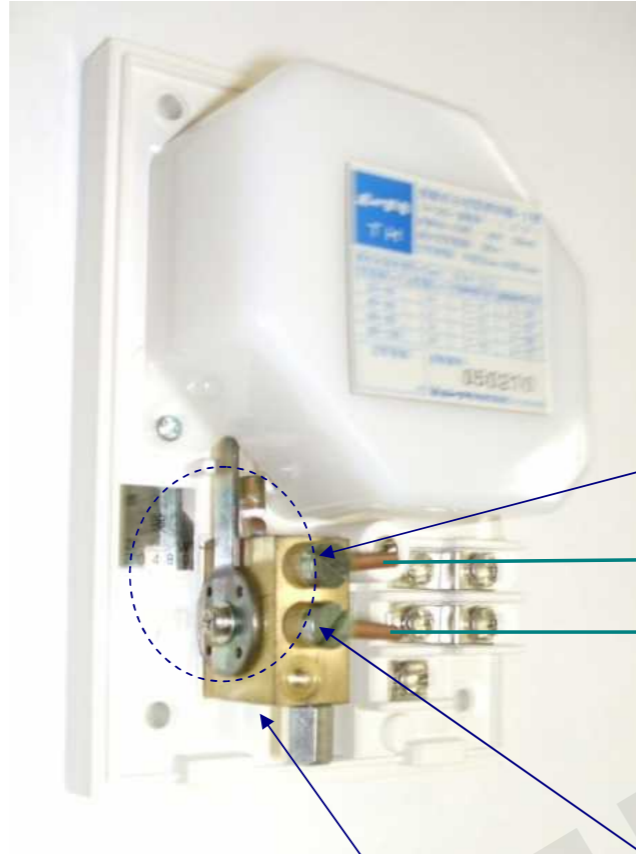
備考



自動火災報知設備 空気管の試験 について - 西日本防災システム



検出器



通常監視状態

ポンプ試験(火災作動試験)

空気管流通試験(流通試験)

ダイヤフラム試験(接点水高試験)

リーク試験(リーク抵抗試験)

通常監視状態

火災作動試験 ポンプ試験

作動試験  
作動継続試験

流通試験 空気管流通試験

ダイヤフラム試験 接点水高試験

リーク試験 リーク抵抗試験

ポンプ試験参考数値表

空気管長 : m	送気量 : cc		時間 : 秒	
	1種	2種	作動時間	継続時間
60m未満	0.6	1.4	0.5~3	10~40
60m以上80m未満	1.1	2.2	1~5	20~55
80m以上100m未満	1.4	3.0	2~7	30~70

